

# II

## 児童生徒のコミュニケーション能力の育成

- 1 身に付けさせたいコミュニケーション能力の分析
  - コミュニケーション能力を構成する5つの力
  - 発達の段階を踏まえた児童生徒の具体の姿
  
- 2 コミュニケーション能力の育成に資する手法を理解する校内研修プログラム
  - 構成的グループエンカウンター
  - ピア・サポート
  - アサーショントレーニング
  
- 3 コミュニケーション能力を育成する指導の工夫
  - 小学校における実践例  
(国語／算数／生活／音楽／体育／家庭／道徳／外国語活動／特別活動／朝の会・帰りの会／係活動・当番活動)
  - 中学校における実践例  
(国語／理科／外国語／道徳／特別活動)
  - 高等学校における実践例  
(国語／数学／現代社会／地理／総合的な学習の時間)

# 身に付けさせたいコミュニケーション能力の分析

## ○ コミュニケーション能力を構成する5つの力

コミュニケーション能力のとらえ方には様々ありますが、本研究では、目指す児童生徒像として設定した「自分自身の可能性を肯定的に認識し、主体的に行動する児童生徒」、「他者の考えや立場を理解し、協働する児童生徒」を育てる観点から、必要と考えられるコミュニケーション能力を、いくつかの要素に整理しました。

小、中、高等学校学習指導要領及びコミュニケーション教育推進会議（文部科学省）においてとりまとめた審議経過報告等を分析し、「自分自身の可能性を肯定的に認識し、主体的に行動する」ための力として「自分の役割を果たす力」、「前向きに考える力」が必要であると考えました。また、「他者の考えや立場を理解し、協働する」ための力として、「自分自身や他者を理解する力」、「他者に働きかける力」が必要であると考えました。

さらに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤となる基礎的・基本的な技能として、相手、目的や意図、場面や状況に応じて適切に表現したり正確に理解したりする「話す力・聞く力」が必要であると考えました。

そこで本研究では、これら5つの力を、コミュニケーション能力を構成する力ととらえました。

■コミュニケーション能力を構成する5つの力■

自分の役割を果たす力	前向きに考える力	自分自身や他者を理解する力	他者に働きかける力	話す力・聞く力
自分には多様な役割があることや、その役割を果たすことの意義を理解し、責任をもって役割を果たす力	自分の思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	自分自身と他者の個性や感情を理解し、受け入れる力	様々な他者を認めながら協働していく力	相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力



## ○ 発達の段階を踏まえた児童生徒の具体の姿

国語、道徳、特別活動の指導内容及びキャリア教育で身に付けようとする能力を基に、コミュニケーション能力を構成する5つの力に関わるものを分析し、発達の段階を踏まえた児童生徒の具体の姿として一覧に整理しました。

### ■ 発達の段階を踏まえた具体の姿 ■

校種	力	自分の役割を果たす力	前向きに考える力	自分自身や他者を理解する力	他者に働きかける力	話す力・聞く力
小学校	第1・2学年	○ 自分がやらなければならない勉強や仕事をしっかり行っている。	○ よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行っている。	○ 自分の好きなことや嫌いなことをはっきりと言っている。 ○ 友達と仲良く遊び、助け合っている。 ○ 他者を思いやり、親切にする。 ○ お世話になった人に感謝している。	○ あいさつや返事をしている。 ○ 「ありがとう」「ごめんなさい」を言っている。 ○ 自分の考えをみんなの前で話している。	○ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話している。 ○ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合っている。
	第3・4学年	○ 自分でやろうと決めたことを、粘り強くやり遂げている。	○ 過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活している。 ○ 正しいと判断したことは勇気をもって行っている。	○ 自分のよいところを見付けている。 ○ 友達のよいところを認め、励まし合っている。 ○ 自分の生活を支えてくれている人に感謝している。 ○ 自分の特徴に気付きよいところを伸ばしている。	○ 自分の意見や気持ちをわかりやすく表現している。 ○ 他者の気持ちや考えを理解しようとしている。 ○ 他者と協力して、学習や活動に取り組んでいる。	○ 相手や目的に応じて理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話している。 ○ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら進行に沿って話し合っている。
	第5・6学年	○ 自由を大切にし、自律的で責任ある行動をしている。	○ より高い目標を立て希望と勇気をもってくじけないで努力している。 ○ 誠実に、明るい心で楽しく生活している。	○ 自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮している。 ○ 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとしている。 ○ 自分の特徴を知って悪いところを改め、よいところを積極的に伸ばしている。	○ 思いやりの心を持ち相手の立場に立って考え行動しようとしている。 ○ 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとしている。	○ 目的や意図に応じて事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話している。 ○ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合っている。
中学校	○ 自律の精神を重んじ自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもっている。	○ より高い目標を目指し希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもっている。 ○ 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに個性を伸ばして充実した生き方を追求している。	○ 自分と他者の個性を理解し尊重している。 ○ 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響を理解している。 ○ 自分の悩みを話せる人がいる。	○ 他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとしている。 ○ 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得している。 ○ リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をしている。 ○ 新しい環境や人間関係に適應している。	○ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに敬語を適切に使っている。 ○ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合っている。	
高等学校	○ 自己の生きる場としての社会をよりよいものにしていくことが、誰にとっても重要であることに気付き、社会の構成員として積極的に自己の役割を果たしている。	○ 人間として望ましい在り方について学び自己の生き方を主体的に選んでいる。	○ 自己の職業的な能力及び適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとしている。 ○ 他者の価値観や個性のユニークさを理解するとともに、それを受け入れている。 ○ 互いに支え合いわかり合える友人がいる。	○ 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の思い等を的確に理解している。 ○ 異年齢の人や異性等様々な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図っている。 ○ リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高めている。 ○ 新しい環境や人間関係を生かしている。	○ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりしている。 ○ 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの方、感じ方、考え方を豊かにしている。	

# コミュニケーション能力の育成に資する手法を理解する 校内研修プログラム

## ○ 本研究で取り上げる教育相談の手法

本研究では、コミュニケーション能力の育成に資する手法として、教育相談の代表的な手法である「構成的グループエンカウンター」、「ピア・サポート」、「アサーショントレーニング」を取り上げました。

教育相談の手法	教育活動において活用する際のねらい等
構成的グループエンカウンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出会いの時期の人間関係づくりを支援する</li> <li>・ 固定的な人間関係の打開を支援する</li> </ul> 等
ピア・サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思いやりにあふれた学校環境づくりを支援する</li> <li>・ 児童生徒同士のサポート活動を支援する</li> </ul> 等
アサーショントレーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対人場面で自分の伝えたいことを伝えることを支援する</li> <li>・ 社会的行動の獲得を支援する</li> </ul> 等

## ○ コミュニケーション能力を構成する5つの力と教育相談の手法

「構成的グループエンカウンター」、「ピア・サポート」、「アサーショントレーニング」は、本研究におけるコミュニケーション能力を構成する5つの力を育成する指導を行う際、次のように活用することができると考えます。

教育相談の手法	コミュニケーション能力を構成する5つの力の育成への活用
構成的グループエンカウンター	【「自分の役割を果たす力」を育成するために】 ・ 互いの成長や活躍などを認め合う活動を通して、自分ができることや役割に気付く。 【「前向きに考える力」を育成するために】 ・ 互いの個性を認め合う活動を通して、自己の個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする意欲を高める。
ピア・サポート	【「自分自身や他者を理解する力」を育成するために】 ・ 自分のよさや個性がわかり、他者のよさや感情を理解し、尊重できるようにする。 【「他者に働きかける力」を育成するために】 ・ 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動できるようにする。
アサーショントレーニング	【「前向きに考える力」を育成するために】 ・ 正しいと判断したことを、相手に率直に伝えることができるようにする。 【「自分自身や他者を理解する力」を育成するために】 ・ 自分の考えを大切に、相手の考えを尊重することができるようにする。 【「他者に働きかける力」を育成するために】 ・ 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の思い等を的確に理解することができるようにする。

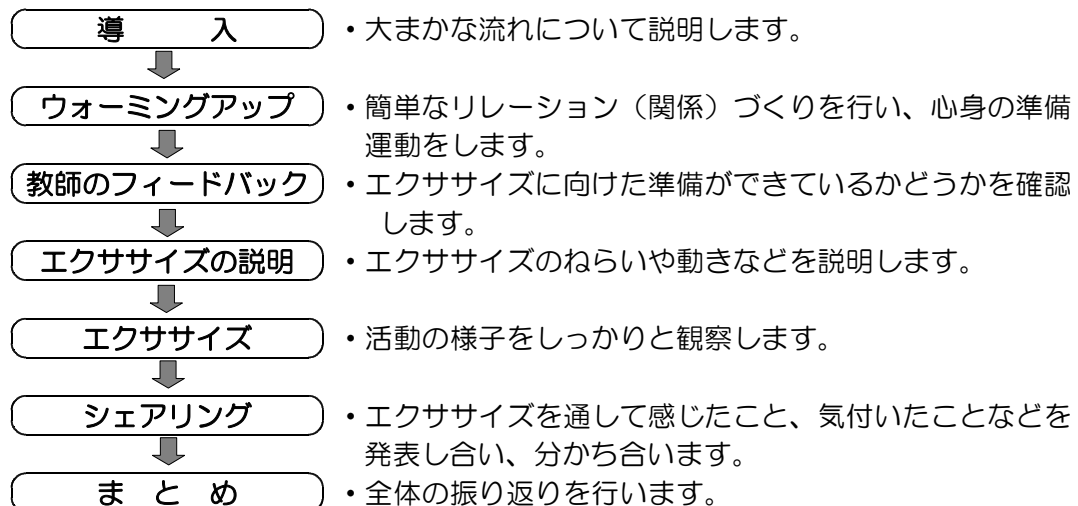
## 構成的グループエンカウンター

### 構成的グループエンカウンターとは

「エンカウンター」とは、「出会う」という意味です。意図的に構成されたグループでの体験を通して他者に出会い、自分に出会います。人間関係づくりや相互理解、協力して問題解決する力などが育成されます。集団のもつプラスの力を最大限に引き出す方法と言えます。学級づくりや保護者会などに活用できます。

### 構成的グループエンカウターの進め方

構成的グループエンカウンターは、ねらいや目的に応じて様々な種類がありますが、学校の教育活動においては、次のような流れで行います。



#### ◆エクササイズ◆

エクササイズとは、心理面の発達を促す課題のことです。エクササイズの種類には、「自己理解」「他者理解」「自己受容」「自己表現・自己主張」「感受性の促進」「信頼体験」の6つがあります。

例えば、2人1組で行うエクササイズ「トラストワーク」は、一緒に歩くことによって生じる安心感や不安感などを体験するもので、「信頼体験」に分類されます。

### 実施する際に留意すること

- エクササイズのねらいを明確にする
- 児童生徒の実態に合わせ、タイムリーに実施する
- 単なる遊びにならぬよう、けじめをつける
- エクササイズのねらいに応じて教師の自己開示をする
- 発達の段階や各教科・領域との関連を踏まえて計画的に実施する

## 校内研修で構成的グループエンカウンターを実施する意義

校内研修で構成的グループエンカウンターを実施することにより、エクササイズを通して自分や他者の理解を深め、あたたかな人間関係づくりのスキルを体験的に理解し、児童生徒に対する様々な指導に役立てることが出来ます。

## 校内研修で行う構成的グループエンカウンターの例

### 【例1】他者理解を促すためのエクササイズ「質問ジャンケン」

- 1 このエクササイズのねらい  
友達同士が肯定的に認め合える雰囲気づくりをし、交流を促進する。
- 2 学校の教育活動では
  - ・学級開き後の人間関係づくりの支援
  - ・固定的な人間関係の打開
- 3 研修の流れ
  - ① ペアになって座ります。
  - ② 指導者は、ねらい、大まかな内容、ルール、留意点を説明します。
  - ③ ジャンケンをして、勝った人は、負けた人に1つ質問します。その際、自分が聞かれて答えたくないようなことは質問しないようにします。
  - ④ 負けた人は、質問に答えます。わからないことや答えられないことを質問された場合は、「わかりません」「答えられません」と言ってもかまいません。
  - ⑤ ペアで、エクササイズを通して気付いたことや感じたことを交流（シェアリング）します。

### 【例2】自己理解・他者理解を促すためのエクササイズ「二者択一」

- 1 このエクササイズのねらい  
お互いの好みや考え方を伝え合うことで、相互理解を促進する。
- 2 学校の教育活動では
  - ・出会いの時期の人間関係づくりの支援
- 3 研修の流れ
  - ① 2人1組になって座ります。
  - ② 指導者は、ねらい、大まかな内容、ルール、留意点を説明します。
  - ③ 個人で、ワークシート各項目について、2つのうちから好きなほうを選びます。
  - ④ 2人で、1項目ずつ、選んだものとその理由について紹介し合います。
  - ⑤ 2人で話したことの中で、他の人に紹介したくなったことや、感じたこと、気付いたことなどを全体に発表し、交流（シェアリング）します。

二者択一	
年 組	番 名 前
1	ジュース ・ アイスクリーム
2	カレーライス ・ ラーメン
3	先生 ・ 生徒
4	生まれ変わるなら 男 ・ 女
5	社長 ・ 副社長
6	太陽 ・ 月
	.....
	.....
	.....

### 【例3】自己受容を促すためのエクササイズ「みんなでリフレーミング」

#### 1 このエクササイズのねらい

自分の短所は、見方を変えれば長所でもあることを知り、自己肯定感を高める。

#### 2 学校の教育活動では

- ・2学期以降の信頼関係づくりの支援

#### 3 研修の流れ

- ① 4人グループになって座ります。グループの中を、さらに2人ずつのペアに分けます。
- ② 指導者は、ねらい、大まかな内容、ルール、留意点を説明します。
- ③ 自分が短所だと感じていることをワークシートに書き、相手ペアと交換します。
- ④ 「リフレーミング辞書」を参考にしながら、ペアで話し合い、相手ペアの短所を長所に書きかえます。
- ⑤ 4人グループに戻り、長所に書きかえた言葉を相手に伝えます。
- ⑥ リフレーミングの結果を聞いて感じたことを交流（シェアリング）します。

#### みんなでリフレーミング

あなたの名前を書きましょう。

① \_\_\_\_\_さんは

あなたが、自分の短所だと感じていることを書き  
ましよう。

② \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_（こと）を自分の短所だと感じています。

しかし、見方を変えれば、それは

③ \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_という長所なのです。

#### リフレーミング辞書

書きかえたい言葉	リフレーミングすると
甘えん坊な	人にかわいがられる
飽きっぽい	好奇心が旺盛な
	様々なことに興味がある
あきらめが悪い	一途な
	チャレンジ精神に富む
あわてんぼう	行動的な
いいかげんな	こだわらない
	おおらかな
意見が言えない	争いを好まない
	協調性がある

### 【例4】感受性を促すためのエクササイズ「ありがとうカード」

#### 1 このエクササイズのねらい

人のよさを見付けることで他者に対する肯定的な感情を育てるとともに、お互いの気持ちを交換して自分の成長を確認する。

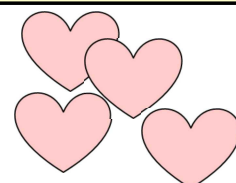
#### 2 学校の教育活動では

- ・行事、終業式、卒業など集団生活が終わる時期におけるグループの帰属意識の支援

#### 3 研修の流れ

- ① 4～5人グループになって座ります。
- ② 指導者は、ねらい、大まかな内容、ルール、留意点を説明します。
- ③ ワークシートを洗濯ばさみで自分の背中に付けます。
- ④ グループのメンバーそれぞれに伝えたい自分の気持ちをハートのカードに記入し、相手の背中のワークシートに貼ります。
- ⑤ 指導者の合図で、一斉に背中のワークシートをはずし、それぞれ声に出さずにメッセージを読みます。
- ⑥ メッセージを読んで感じたことをグループで話し合い、全体で交流（シェアリング）を行います。（交流を行わずに、各自がメッセージを読み味わって終了することもできます。）

#### ありがとうカード



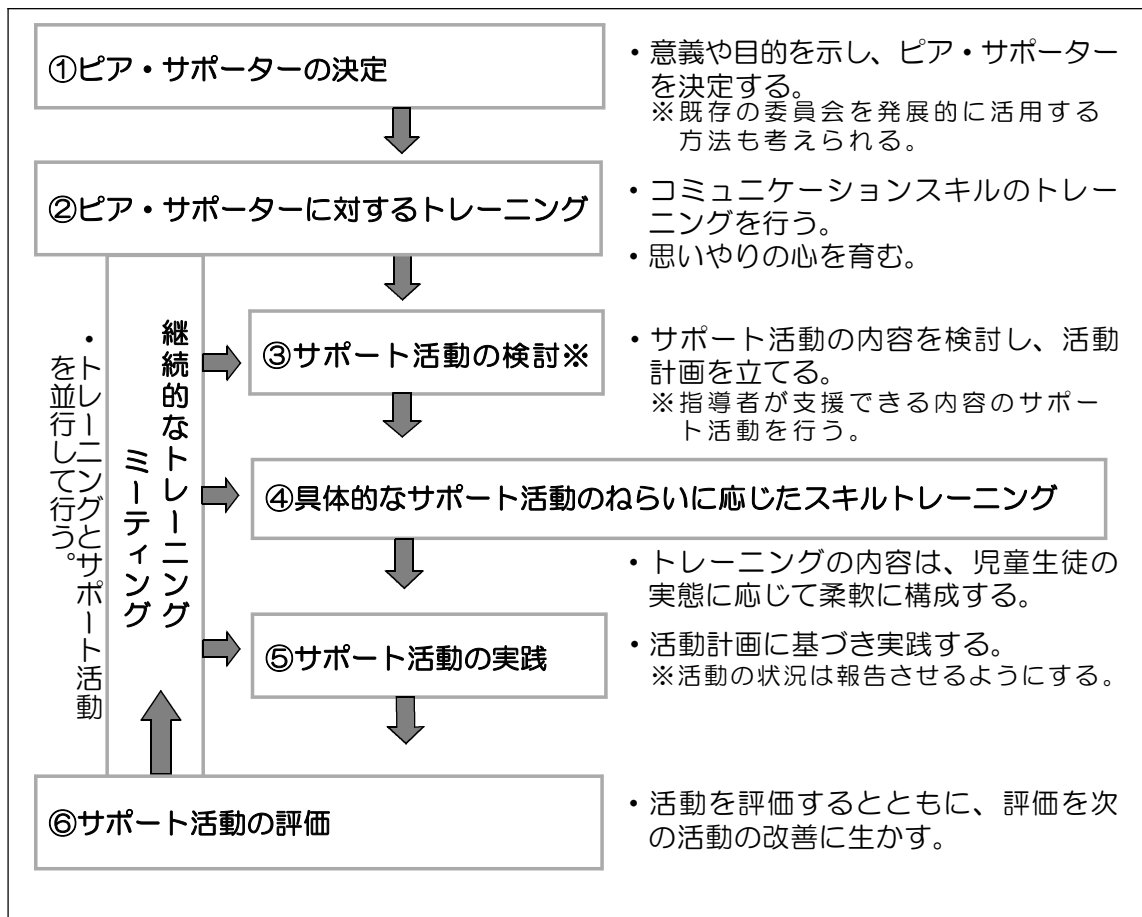
# ピア・サポート

## ピア・サポートとは

「ピア」とは同年代の仲間、「サポート」は支持、援助という意味で、児童生徒が仲間をサポートするために必要なトレーニングを受け、他者を思いやることを学び、仲間に対してさまざまなサポート活動を行うことです。

## ピア・サポートの進め方

ピア・サポートは、思いやりにあふれた学校環境を創造しようという教育活動で、具体的には、次のような流れになります。また、活動を進めるに当たっては、教職員の共通理解を図ることが必要です。



### ※ サポート活動の検討

サポート活動は、相談活動だけではなく、より幅広く捉えるべきです。「数学がわからなくて困っている」「けがで松葉杖を使わなくてはいけないので、荷物を持ってなくて困っている」「転校したばかりで、学校の様子がわからなくて困っている」などに対する支援もサポート活動として考えることが大切です。また、挨拶運動など、啓発的な活動を企画することも考えられます。



## ピア・サポートを校内研修で実施する意義

校内研修においてピア・サポートの進め方を確認したり、ピア・サポーターに対するトレーニングを体験したりすることにより、教職員の共通理解を図り、児童生徒のサポート活動を支援するための力量を高めることができます。

## 校内研修で行うピア・サポートの例

### 【例1】

#### 知り合うための活動「ごちゃまぜピンゴ」

#### 1 目的

相手の名前や人柄を知る

#### 2 人数

30人前後

#### 3 研修の流れ

- ① 全員で立って動きまわり、それと見える相手を次々に見つけて質問していきます。
- ② 相手が質問したことに当てはまれば、名前を書いてもらって次の相手をみつけます。
- ③ たて、横、斜めいずれかの1列に名前がそろったら、ピンゴになります。

#### ごちゃまぜBINGO

- 1 質問する前に、あくしゅをしてから、名前を言います。相手の人に質問をして書いてあることに当てはまったら四角形の中にサインをもらってください。
- 2 質問は1回だけで、続けて同じ人には質問はできません。
- 3 たて、横、ななめのうち、どれでも一列にサインがもらえたら、「ピンゴ」と言います。

外で遊ぶのが好き	ディズニーランドに行ったことがある	自転車をもっている	姉か妹がいる	ペットを飼っている
体育が好き	楽器をひくのが好き	CDで音楽を聴くのが好き	クッキーをつくことが出来る	まんがが大好き
飛行機に乗ったことがある	兄弟がいる	チョコレートが好き	一人で電車に乗ったことがある	算数が好き
社会科が好き	昆虫が好き	小さい子と遊ぶのが好き	朝ねぼろである	足がはやい
サッカーが好き	同じテレビ組を見ている	まんじゅうが好き	本をよむのが好き	料理が好き

### 【例2】

#### 聞き方・伝え方の活動①「聞くときの姿勢や態度」

#### 1 目的

聞き手の姿勢や態度が、話し手の話そうとする意欲や話しやすさに影響することを知る

#### 2 人数

2人1組で行う。指導者が複数の場合は、大人数でもできる

#### 3 研修の流れ

- ① 2人1組をつくります。
- ② 話し手と聞き手を決め、聞き手に「役割カード」No.1を配付します。このカードは、話し手には見せないようにします。
- ③ 向かい合って座り、話し手に会話のテーマを指示します。聞き手は、カードの指示に従って2～3分間、話を聞きます。
- ④ 会話が終わったら、感想をお互いに話し合います。
- ⑤ 「役割カード」No.2、3の指示に従って同様の活動をします。
- ⑥ お互いの感想を全員の前で発表します。

#### 役割カードNo.1

- かわりの少ない聞き方で聞いてください
- ・相手の言うことに興味を示さない
  - ・話している相手を見ない、ちょっと横を向く
  - ・あなたの時計や洋服をいじる
  - ・つめをかんだり、かみの毛をいじる

#### 役割カードNo.2

- えらそうな聞き方で聞いてください
- ・相手の言うことを、さえぎってしゃべろうとする
  - ・自分の意見をおしつける
  - ・さしずをしようとする
  - ・そんなことはばかげていると言う

#### 役割カードNo.3

- かわりあう聞き方で聞いてください
- ・体を話し手のほうに向け、相手を見る
  - ・リラックスしてのびのびとした姿勢をとる
  - ・相手の話をよく聞き、興味をもっている態度を示す
  - ・聞いていることを、みぶりや顔の表情であらしたり、うなずいたりする

### 【例3】

#### 聞き方・伝え方の活動②「背中合わせと向かい合わせの伝達」

##### 1 目的

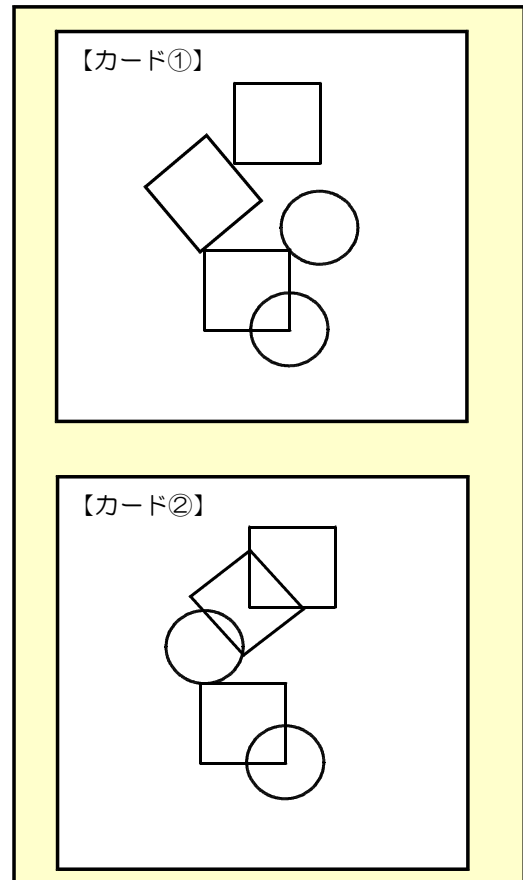
話をするときの位置関係が、情報の伝達にどのように影響するかを、体験を通して考える。

##### 2 人数

2人1組で行うので、指示がとどけば大人数でもできる。

##### 3 研修の流れ

- ① 2人1組をつくって座ります。
- ② 話し手と聞き手を決め、話し手に「カード」を、聞き手に白い紙を配ります。
- ③ 背中合わせに座り、3分間程度の制限時間内に「カード①」と同じ図形が書けるように、話し手は聞き手に情報を伝達します。その際、聞き手はいっさい質問はできません。
- ④ 時間がきたら結果を見せます。
- ⑤ 次に向かい合わせになり、同じ要領で話し手は聞き手に、「カード②」の情報を伝えます。聞き手は質問できませんが、話し手は様子を見ながら指示します。
- ⑥ 時間がきたら結果を見せます。
- ⑦ 2つのやり方を比べて、伝わり方やそのときの気持ちについて話し合います。



### 【例4】

#### 集団活動の中での意思決定や問題解決の活動「無人島からの脱出」

##### 1 目的

- ① 自分の考え方を主張する。
- ② 友達の多様な考え方を知り、お互いを認め合える人間関係を築く。

##### 2 人数

20人前後

##### 3 準備

脱出のために必要なものを書いたカード（各グループに10枚）を用意する。

なべ、ライター、お金、携帯電話、家族の写真、薬、毛布、テント、ナイフなど児童生徒の価値観にふれる物を考える。

##### 4 研修の流れ

- ① 5人から6人のグループをつくります。
- ② 「無人島からの脱出」という状況について、指導者が説明をします。
- ③ 10枚のカードの中から、一番必要だと思われるものを自分で選び、理由を考え、発表します。
- ④ グループで話し合っって10枚のカードから必要なものを選び、順位を付けます。
- ⑤ グループの代表が順番に、全体に発表します。

## アサーショントレーニング

### アサーショントレーニングとは

「主張訓練」と訳されます。対人場面で自分の伝えたいことをしっかり伝えるためのトレーニングです。「断る」「要求する」といった葛藤場面での自己表現や「ほめる」「感謝する」「うれしい気持ちを表す」「援助を申し出る」といった他者との関わりをより円滑にする社会的行動の獲得を目指します。

### 自己表現の3つのタイプ

自己表現を3つのタイプに分類し、アサーショントレーニングでは、アサーティブな自己表現を身に付けることを目指します。

#### <非主張的（ノンアサーティブ）な自己表現>

相手は大切にすが、自分は大切にしない表現

例) 友達から何か頼まれた時、やりたくないのに「いいよ」と言ってしまう。

#### <攻撃的（アグレッシブ）な自己表現>

自分は大切にすが、相手は大切にしない表現

例) 友達から何か頼まれた時、相手の気持ちを考えずに「絶対にいやだ」と言い続ける。

#### <アサーティブな自己表現>

自分も相手も大切にす表現

例) 友達から何か頼まれた時、できない理由を伝えつつ、次の機会や引き受ける場合の具体例などを伝える。

### 基本的アサーション権の理解

アサーティブな自己表現を身に付けるためには、教師や児童生徒が基本的アサーション権について理解することが大切です。

#### <基本的アサーション権>

- ・ 私たちには、誰からも尊重され、大切にしてもらおう権利がある。
- ・ 私たちには、他人の期待に応えるかどうかなど、自分の行動を決め、それを表現し、その結果について責任をもつ権利がある。
- ・ 私たちには、過ちを犯しそれに責任をもつ権利がある。
- ・ 私たちには、支払いに見合ったものを得る権利がある。
- ・ 私たちには、自己主張しない権利もある。

### 具体的な場面でのアサーティブな言動

学校生活の様々な場面で、教師が児童生徒に対して適切な支援を行うことが大切です。

#### ■ 基本的アサーション権の理解のために

「誰でも自分の意見をもつことができるよ」

#### ■ 自己信頼や他者信頼の感情を育成するために

「あなたはそのままのあなたでいいよ」「きっと、受け止めてくれる人がいるよ」

「あなたと同じように大切なほかの人の声にも、しっかり耳を傾けてごらん」

#### ■ アサーティブなものの見方や考え方に気付かせるために

「ものの見方や考え方を変えたりこだわりを捨てたりすると、気持ちが軽くなるよ」

#### ■ スキルの習得のために

「言い方を工夫すると、友達とうまくいくよ」

## 校内研修でアサーショントレーニングを実施する意義

校内研修でアサーショントレーニングを実施することにより、自分と相手を大切にすることを自己表現について体験的に理解することができるので、児童生徒に対する指導の際に役立ちます。

## 校内研修で行うアサーショントレーニングの例

### 【例1】

#### 自尊感情を高めるトレーニング「自分にほめ言葉をプレゼントしよう」

##### 1 必要人数等

3人1組になって実施

##### 2 所用時間

10～20分

##### 3 研修の流れ

- ① 各自、演習シートに自分へのほめ言葉を記入します。  
人がどう思うかということではなく、自分でそうだと思うことを書くようにします。
- ② 3人1組で座り、順番に自分の書いたものを発表します。1人の発表が終わるごとに、メンバーが1人ずつ、発表した人をほめます。発表者は、素直に「ありがとう」「うれしい」などと言って、ほめ言葉を受け取ります。
- ③ 3人の発表が終わったら、感想を話し合います。
- ④ 各自、振り返りシートに自分の感想を記入します。

ほめ言葉を記入するシート  
「僕へのほめ言葉、私へのほめ言葉」

- 1 自分の好きなところはどこですか。
- 2 人より少しうまくできると思えることは何ですか。
- 3 以前はできなかったのに、最近できるようになったことは何ですか。
- 4 うれしいと思えるのはどんなときですか。
- 5 自分でがんばっていると思えることはどんなことですか。
- 6 どんなところを1番ほめてほしいですか。

自分にほめ言葉をプレゼントしよう  
～ふりかえり～

- 1 自分への「ほめ言葉」を 発表したとき、どんな気持ちになりましたか？
- 2 友達からほめられたとき、どんな気持ちになりましたか？
- 3 友達をほめたとき、どんな気持ちになりましたか？
- 4 今日のワークの感想を書きましょう。

### 【例2】

#### 日常会話におけるアサーション「上手な断り方」

##### 1 必要人数等

2人1組になって実施

##### 2 所用時間

15～30分

##### 3 研修の流れ

- ① 各自、演習シートのケースから1つを選び、断り方を考えます。(3分)
  - ② 頼む役と断る役に分かれ、断る役はシートに記入した断り方で断り続けます。頼む役は断られても頼み続けます。(4分)
  - ③ 気付いたことを互いに交流します。(2分)
  - ④ 頼む役と断る役を交代して、②を再度行います。(4分)
  - ⑤ 気付いたことを互いに交流します。(2分)
- ※ペアを替えて②～⑤を繰り返すこともあります。

あなたの断り方は？

(ケース1)

試合の前日、部活動の練習に向かう途中、友達に数学の勉強を教えてほしいと頼まれました。あなたは気がのりません。

(ケース2)

夜、友達から電話がかかってきて、相談があるので今から公園に来てくれないかと言われました。あなたは気がのりません。

(ケース3)

友達から、私たちの悪口を言っている子を無視しようと言われました。あなたは気がのりません。

【例3】

アサーションのスキルを身に付けるトレーニング「3つの話し方」

1 必要人数等

3人1組になって実施

2 所用時間

15～30分

3 研修の流れ

- ① 3種類の会話シートを配付し、3種類の会話にどのような違いがあるかを考えながら各自でシートを読みます。
- ② 3人1組になり、Aさん、Bさん、Cさんの話し方の特徴について感じたことや気付いたことを話し合います。
- ③ 全体で、Aさん、Bさん、Cさんの話し方の特徴を話し合い、それぞれにふさわしい名前をつけます。（「さわやかさん」「おどおどさん」「いばりやさん」など）
- ④ 話し方には3種類あること、Aさん、Bさん、Cさんにつけた名前は話し方の特徴であり、誰の中にもこの3人がいることを確認します。

◆◆3種類の会話シート◆◆

勉強しようと思っていたテストの前日、友だちが突然ノートを借りにきました。

< >

友 達：おい、明日のテスト範囲を書いたノートを貸してくれよ。  
 Aさん：え、ノート？ でも……。  
 友 達：いいじゃないか。おまえはもう勉強してあるだろう。  
 Aさん：でも、字が汚くて読めないかもしれないし……。  
 友 達：大丈夫だよ。そんなことかまわないよ。  
 Aさん：うん……そうだね……じゃあ、いいよ。

< >

友 達：おい、明日のテスト範囲を書いたノートを貸してくれよ。  
 Bさん：え?! そんなことできるわけないだろう。  
 友 達：いいじゃないか。おまえはもう勉強してあるだろう。  
 Bさん：だめだよ、ぜったい。今頃何を言っているんだよ。  
 友 達：そんなこと言わないでさあ、頼むよ。  
 Bさん：ぜったい、だめ。無理。いいかげんにしろ。

< >

友 達：おい、明日のテスト範囲を書いたノートを貸してくれよ。  
 Cさん：えっ、今日はこれから帰って勉強しようと思っていたんだ。だから、悪いけど貸してあげられないんだ。  
 友 達：いいじゃないか。おまえはもう勉強してあるだろう。  
 Cさん：ごめんね。まだちゃんと勉強していないから、今日はどうしても勉強したいんだ。  
 友 達：そんなこと言わないでさあ、頼むよ。  
 Cさん：でも、やっぱり今日はだめなんだ。もし、貸してほしいときがあったら、今度はもっと早く言ってくれと貸してあげられるかもしれないからね。

【例4】

問題解決場面におけるアサーション「DESCで話してみよう」

1 必要人数等

4～5人でグループを編成して実施

2 所用時間

45分～

3 研修の流れ

- ① 課題場面についてグループごとにDESC法でせりふを考え、模造紙に記入します。（30分）
  - ② 各グループで考えたせりふを発表し交流します。（10分）
  - ③ 感じたことや気付いたことを全体で交流します。（5分）
- ※ DESC法は、問題解決場面で役立つ表現技法の一つです。D(描写する)、E(表現する)、S(具体的に提案をする)、C(選択する)の4つのステップで、問題解決に役立つせりふをつくります。

DESCシート

あなたは、郊外に新築した家に住んでいます。ある晴れた日曜日、友人が犬を連れて遊びに来ました。犬を庭につないで、あなたと友人は居間で話していました。ふと見ると、つないでいる犬が植えたばかりのバラのつぼみに触っています。あなたは気になってそのことを友人に伝えようとしています。

D：描写する（見たこと、事実の確認）

E：表現する、説明する、共感する  
 （感じたこと、思ったこと）

S：特定の提案をする（提案、お願い）

C：選択する（提案を受け入れてもらえないときに自分はどうするか）

◎ 上の文を全部つなげて、話し言葉で書いてみよう

# コミュニケーション能力を育成する指導の工夫

## ○ コミュニケーション能力を育成する学習プログラム

9ページに示した「発達の段階を踏まえた具体の姿」に基づき、1単位時間の学習指導における、コミュニケーション能力を育成する指導のポイントを示した学習プログラムを25例作成しました。

## ○ 学習プログラムの見方

**「前向きに考える力」を育成する指導の工夫**  
**小学校中学年 算数科における実践例**

**実践例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント**

★1 間違いに気付かせ思考を高める発問により、間違いを素直に認め、改めることの大切さに気付かせるようにします。

★2 図を活用して考えることを促したり、全体交流の前にペアで説明し合う場面を設けたりすることにより、勇気をもって自分の考えを発表できるようにします。

1 学 年 小学校 第3学年  
 2 単 元 名 わり算  
 3 本時の目標 具体物を等分する場面で、図や式を用いて答えを求める方法を考えることができる。  
 4 本時の展開

項目	主な学習活動	指導上の留意点 ※評価	ポイント
導 入	クッキーが12個あります。3人に同じ個数のクッキーを分け与えたとすると1人分のクッキーは何個になりますか。		<b>【ポイント★1】</b> 3等分することと3個ずつ分けることの混乱が見られる児童に対して、問題場面と自分の求め方を見比べてみるように助言する。 ・3人で同じ数ずつ分けた図になっていますか。 ・問題文をよく読んで、自分が書いた図と見比べてみましょう。
	○ 学習のねらいについて話し合う。「クッキーの分け方、おはじきを使わずに考えよう。」 ○ 図や式を用いて答えを求める。→【ポイント★1】	・前向きを振り返り、本時はおはじきを用いないで答えを求めることを確認する。 ・間違いに気付かせ、思考を高める発問をする。	
展 開	○ ペアでノートを見せ合い、答えの求め方について説明し合う。→【ポイント★2】 ○ 図や式を用いた考えを説明し合い、答えの求め方をまとめる。(集団解決)	・【考】除法の計算の仕方、図を用いたり、乗法や減法と関連付けたりして考えている。(ノート、発言)	<b>【ポイント★2】</b> 計算の仕方を自分の力で考え、説明することができるようにするために、ノートに図や式を書かせ、ペアで説明し合う場面を設ける。 ・自分の力でじっくり考えたり、図や式に表そうと努力したりする姿を捉えて褒め、活動に進んで取り組めるようにする。 ・ペアで説明し合う場面では、ノートを見ながら質問し合うことを促し、計算の仕方についての説明を引き出し合うようにする。
	【まとめ】 図に表して考えたことは、ひき算やかけ算の式で表すことができる。		
結 末	○ 適用問題に取り組む。 クッキーが18個あります。3人に同じ個数のクッキーを分け与えたとすると1人分のクッキーは何個になりますか。式と計算の仕方をノートに書きましょう。	・チャレンジテスト等を活用する。 ・学習内容の確実な定着を図るため、家庭で学習する課題を提示する。	

本時で育成したいコミュニケーション能力を構成する力を明確にした上で、指導において留意すべきポイントを示しています。

それぞれの指導のポイントを実際に位置付けた場面を示しています。

それぞれの指導のポイントについて、本時の指導における、具体的な教師の働きかけや手立てを示しています。

# 「自分の役割を果たす力」を育成する指導の工夫

## 小学校低学年 生活科における実践例

### 実践例における「自分の役割を果たす力」を育成する指導のポイント

- ★1 自分の成長やできるようになったことを実感できるよう、見つける、比べる、たとえばなどの多様な活動を促します。
- ★2 自分では気付かなかった新たな自分の成長が、家庭で果たす役割が増えていくことにながっていることに気付かせます。

- 1 学 年 小学校 第1学年
- 2 単 元 名 みんなだいすき
- 3 本時の目標 自分の手の絵を描いたり、できるようになったことを友達と交流したりすることを通して、自分の生活を振り返り、自分ができるようになったことに気づき、自分の成長を実感する。

#### 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 * 評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の学習計画をもとに、本時の課題をつかむ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     課題：「できるようになったこと」をたしかめよう。                 </div>	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の手を観察し、学習カードに、自分の手形と、自分でできるようになったことをかく。 →【ポイント★1】</li> <li>○ 3人のグループに分かれ、学習カードを交換して見せ合う。</li> <li>○ それぞれのグループで、自分ができるようになったことを1人ずつ発表し合う。</li> <li>○ グループの自分以外の2人の発表を聞いて、自分ができるようになったことについて改めて考え、気付いたことを学習カードに書き加える。</li> <li>○ グループでの交流後、学習カードに改めて記入したことや感じたこと、考えたことを、数人が、クラス全体で発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるようになったことを可能な限りたくさん書けるように援助する。</li> <li>*【気】自分ができるようになったことや自分の成長に気付いている。 (学習カードへの記述内容や発言の内容)</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の成長と、家庭で果たす役割とのつながりについて説明する。 →【ポイント★2】</li> <li>○ 次時までには、家族の手を観察したり、インタビューしたりして、家族が行っていることを学習カードに記入するよう指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発表を取り上げる。</li> </ul>

#### 【ポイント★1】

気づきの質を高める多様な活動が促されるよう、家や学校でのことや小さい時のことなどを具体的に問いかける。

- ・「赤ちゃんの時と比べて手の大きさは？」
- ・「学習のことでできるようになったことは？」
- ・「家での手伝いでできるようになったことはないかな？」

#### 【ポイント★2】

自分が新たにできるようになったことが、家庭でどのように役に立つのかを具体的に挙げ、自分の成長と果たす役割のつながりがわかるようにする。

# 「前向きに考える力」を育成する指導の工夫

## 小学校低学年 体育科における実践例

### 実践例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント

- ★1 児童が互いに声をかけ合ったり、話し合ったりする活動を通して、よりよい方法や表現について考えさせるようにします。
- ★2 他の児童の学習の成果を、自らの学習に生かすことができないか考えさせる場面を設定します。

- 1 学 年 小学校 第2学年
- 2 単 元 名 体づくり運動
- 3 本時の目標 身に付けた体のバランスをとる動きをもとに、よい動きを工夫して運動することができる。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 * 評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 準備運動、場や用具を確認する。</li> <li>○ 単元の目標、学習計画、進捗状況を確認し、本時の見通しをもつ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     課題：ペアで身に付けた動きを工夫しよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで協力して色々な運動をすることを確認する</li> <li>○ 動きの工夫の観点を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードを配付し、課題を記入させる。</li> <li>・前時までの多様な動きのポイントを提示する。</li> </ul>
	展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで話し合いながら、姿勢や方向を変えて、座る、立つなどの動きや、バランスを保つ動きで構成される運動遊びを行う。</li> </ul> <p>→【ポイント★1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他のペアと運動遊びを見せ合う。</li> <li>○ よい動きを見付け合ったり、相談したりしながら動きを工夫する。</li> <li>・動きの工夫について学習カードに記入する。</li> </ul> <p>→【ポイント★2】</p>
終 末		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の振り返りをする。</li> <li>・自分たちが工夫したことや他のペアの運動を見て気付いたことを学習カードに記入する。</li> <li>○ いくつかのグループの発表を見合う。</li> <li>○ 整理運動と片付けをする。</li> </ul>

#### 【ポイント★1】

自分の考えや工夫を相手に分かりやすく伝えたり、互いによりよい考えを出し合ったりすることができるように、具体的にアドバイスする。

- ・「どんなところを工夫したらいいかな？」
- ・「どうすると動きのバランスがとれるかな？」

#### 【ポイント★2】

他のペアの運動が、自分たちの運動遊びに取り入れることができないか考え、互いに伝え合う時間を確保し、気付いた点を交流させる。



# 「他者に働きかける力」を育成する指導の工夫

## 小学校低学年 道徳の時間における実践例

### 実践例における「他者に働きかける力」を育成する指導のポイント

- ★1 話し合いの場面において、児童が自信をもって自分の考えを話せるようにします。
- ★2 他の児童と考えを交流することを通して、新たな価値観に気づき、考えを深めることができるようにします。

- 1 学 年 小学校 第2学年
- 2 主 題 名 礼儀 内容項目2-(1)
- 3 本時のねらい 気持ちのよいあいさつを心掛け、明るく接しようとする態度を育てる。
- 4 資 料 名 「たびにでて」(文部科学省 小学校道徳読み物資料集)
- 5 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活の様々な場面で行っている挨拶について発表し合う。</li> <li>・ どんなどきに挨拶をしているか発表し合う。</li> </ul>	
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料「たびにでて」を読んで、主人公の心の変化について話し合う。</li> <li>・ 「あいさつじま」からでていくけいたは、どんな気持ちでいたかを考える。</li> <li>・ 「あいさつのないしま」の木の上にしたときのけいたの気持ちについて話し合う。</li> <li>・ 「あいさつのないしま」で、元気な声で挨拶するけいたが考えていたことを話し合う。</li> </ul> <p>→【ポイント★1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挿絵も参考にしながら心情を考えるように促す。</li> </ul>
展開後半	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの挨拶に関する経験について話し合う。</li> <li>・ 挨拶をしたりされたりして、気持ちがよいと感じたときのことを思い出し、発表し合う。</li> <li>・ 話し合ったことを基に、挨拶について考え、ワークシートに書く。</li> </ul> <p>→【ポイント★2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 挨拶の大切さに気づきこれからの自分の挨拶について考えている。(ワークシートへの記述内容、発言の内容)</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の説話を聞く。</li> <li>○ 心のノート「あいさつは心のリボン」を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の挨拶のよさを紹介する。</li> <li>・ 心のノート36ページを活用する。</li> </ul>

### 【ポイント★1】

児童の発表を要約したり補足したりして、全体にわかりやすく伝えるとともに、内容のよさをとらえて称賛する。

### 【ポイント★2】

互いの体験について交流することを通して、挨拶についての新たな価値観に気づくようにするとともに、書くことを通して、これまでの自分を振り返りながら挨拶について考えることができるようにする。

# 「話す力・聞く力」を育成する指導の工夫

## 小学校低学年 国語科における実践例

### 実践例における「話す力・聞く力」を育成する指導のポイント

- ★1 発表メモを作成したり見直したりすることを通して、事柄を順序立てて話す力を高めるようにします。
- ★2 自分が興味をもっていることを落とさずに、相手の話を集中して聞くことができるようにします。

- 1 学 年 小学校 第2学年
- 2 単 元 名 自分の宝物を紹介しよう
- 3 本時の目標 宝物の特徴などに注意して発表メモを見直し、宝物紹介スピーチの準備をすることが出来る。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	○ 前時の学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に作成した取材用カードを用意させる。</li> </ul>
	○ 本時の学習について確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     たからものしょうかいスピーチのじゅんびをしよう。                 </div>	
展 開	○ 取材用カードを並べて作成した発表メモを見直し、紹介したい宝物の特徴が伝わるように話す事柄を整理し、話す順序を決める。 ・取材用カードを読み直したり、順序を入れ替えたりして、宝物の特徴が伝わるようにする。 →【ポイント★1】	*【言】気持ちを表す語句や色、大きさ、形を表す語句など、意味による語句のまとまりがあることに気付いて話す言葉を考えている。 (発表メモへの記述内容)
	○ 2人組で宝物紹介スピーチのリハーサルをする。 →【ポイント★2】	*【関】自分の思いを伝えるために、紹介の仕方を工夫しようとしている。 (リハーサルの様子の観察、取材用カードへの記述内容)
終 末	○ 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表メモの見直しやリハーサルへの取組のよさを具体的に紹介し、称賛する。</li> <li>・次時は全体で宝物紹介スピーチを行うことを伝える。</li> </ul>
	○ 次時の学習への意欲をもつ。	

#### 【ポイント★1】

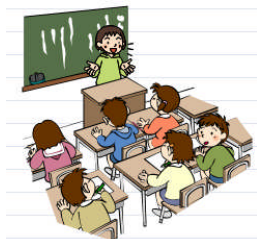
宝物の特徴や気に入っているところ、大切にしている理由などを書いた取材用カードを並べて発表メモを作成できるようにするとともに、宝物の特徴が伝わるように発表メモを見直す場面を設ける。

#### 【ポイント★2】

相手の話を聞く際のポイントを説明し、板書する。

- ・宝物の気に入っているところはどこか。
- ・気に入っている理由は何か。
- ・自分がもっと詳しく聞きたいことは何か。

## 「自分自身や他者を理解する力」を育成する指導の工夫 小学校低学年 朝の会、帰りの会における実践例



朝の会や帰りの会の運営に当たっては、児童の考えを生かしながら計画し、今日の出来事を発表し合ったり、係からの連絡を伝えたりするなど、できるだけ多くの児童が活躍できる場面をつくり、互いに関わりをもてるようにすることが大切です。

### 具体的な教師の働きかけの例

- 朝の会で「今日のめあて」などを決めたときは、1日の中で、そのめあてが達成できるような場면을意図的に設定します。
- めあてに向かって努力している児童に対し、励ましの言葉や、努力を認めるような言葉かけをします。
- 帰りの会の中で、「今日は、〇〇さんが、泣いている下級生に優しく声をかけている姿を見て、うれしい気持ちになった。」など、児童が友達のよさに気付くことができるように話をします。

## 「自分の役割を果たす力」を育成する指導の工夫 小学校中学年 係活動や当番活動における実践例



係活動や当番活動においては、一人一人の努力を認め、児童に、学級のために仕事をしてよかった、みんなの役に立ててうれしかったという気持ちを味わわせることが大切です。

### 具体的な教師の働きかけの例

- 一緒に活動を行いながら、「さすがだね」「よく気付いたね」など、児童の行動を評価して伝えます。
- それぞれの係が独自に活動を進めるだけでなく、係活動の計画等を学級会の議題に取り上げ、お互いの意見や希望を聞くことができる機会を設けます。
- 係活動を活発にするために、係活動の連絡や発表の機会を朝の会や帰りの会等に設けます。

# 「前向きに考える力」を育成する指導の工夫

## 小学校中学年 算数科における実践例

### 実践例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント

- ★1 間違いに気付かせ思考を高める発問により、間違いを素直に認め、改めることの大切さに気付かせるようにします。
- ★2 図を活用して考えることを促したり、全体交流の前にペアで説明し合う場面を設けたりすることにより、勇気をもって自分の考えを発表できるようにします。

- 1 学 年 小学校 第3学年
- 2 単 元 名 わり算
- 3 本時の目標 具体物を等分する場面で、図や式を用いて答えを求める方法を考えることができる。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<b>問題</b> クッキーが12個あります。3人に同じ個数のクッキーを分け与えるとすると1人分のクッキーは何個になりますか。 ○ 学習のねらいについて話し合う。「クッキーの分け方を、おはじきを使わずに考えよう。」	・前時を振り返り、本時はおはじきを用いないで答えを求めることを確認する。 ・間違いに気付かせ、思考を高める発問をする。
	○ 図や式を用いて答えを求める。 →【ポイント★1】 ○ ペアでノートを見せ合い、答えの求め方について説明し合う。 →【ポイント★2】 ○ 図や式を用いた考えを説明し合い、答えの求め方をまとめる。 [集団解決]	
展 開	【まとめ】 図に表して考えたことは、ひき算やかけ算の式で表すことができる。	*【考】除法の計算の仕方、図を用いたり、乗法や減法と関連付けたりして考えている。 (ノート、発言)
	○ 適用問題に取り組む。 クッキーが18個あります。3人に同じ個数のクッキーを分け与えるとすると1人分のクッキーは何個になりますか。式と計算の仕方をノートに書きましょう。	
終 末		・チャレンジテスト等を活用する。 ・学習内容の確実な定着を図るため、家庭で学習する課題を提示する。

#### 【ポイント★1】

3等分することと3個ずつ分けることの混乱が見られる児童に対して、問題場面と自分の求め方を見比べてみるように助言する。

- ・3人で同じ数ずつ分けた図になっていますか。
- ・問題文をよく読んで、自分が書いた図と見比べてみましょう。

#### 【ポイント★2】

計算の仕方を自分の力で考え、説明することができるようにするために、ノートに図や式を書かせ、ペアで説明し合う場面を設ける。

- ・自分の力でじっくり考えたり、図や式に表そうと努力したりする姿を捉えて褒め、活動に進んで取り組めるようにする。
- ・ペアで説明し合う場面では、ノートを見ながら質問し合うことを促し、計算の仕方についての説明を引き出し合うようにする。



# 「他者に働きかける力」を育成する指導の工夫

## 小学校中学年 音楽科における実践例

### 実践例における「他者に働きかける力」を育成する指導のポイント

- ★1 自分や他の児童がつくる作品をよりよいものにするという目的意識をもって、自分の思いや意図を言葉や音楽で相手に伝えたり、相手の思いや意図をとらえてアドバイスをしたりできるようにします。
- ★2 学習の振り返りにおいて、他の児童からのアドバイスによって自分の作品が変わったことや、自分のアドバイスが相手の作品づくりに役立ったことを実感できるようにします。

- 1 学 年 小学校 第4学年
- 2 題 材 名 お祭りの音楽や民謡を楽しもう
- 3 本時の目標 お囃子の旋律を特徴付けている音階やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、お囃子づくりを工夫することができる。

#### 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習への関心をもつ。</li> <li>・「秩父屋台ばやし」を聴き、気付いたことや感じたことを話し合う。</li> <li>・各楽器の役割について考えながら、お囃子を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムや楽器の音色に着目させる。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ リズム、旋律を工夫して、リコーダーでお囃子をつくる。</li> <li>・ワークシートの音階表を参照しながらリコーダーで旋律をつくる。</li> <li>○ つくったお囃子をグループ内で聴き合い、リズム、旋律を見直す。</li> <li>・グループ内で、つくったお囃子を聴き合い、リズムや旋律の組合せ、多様さ、つながりなどについて意見を交流する。</li> </ul> <p>→【ポイント★1-①、②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リズム、旋律を見直し、工夫してお囃子をつくる。</li> <li>・グループのメンバーからの意見をもとに、リズムや旋律の組合せ、多様さ、つながりを見直し、工夫してお囃子をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【創】音楽を特徴付けている音階やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながらその組合せなどを工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</li> <li>(演奏の聴取、ワークシートへの記述内容)</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ つくったお囃子をペアで演奏し合う。</li> <li>・リズム、旋律をどのように見直し工夫したかを伝え合い、演奏し合う。</li> <li>○ 本時の学習を振り返る。</li> <li>・振り返りカードに各自記入し、グループ内で発表し合う。</li> </ul> <p>→【ポイント★2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時はつくった旋律と太鼓のリズムを組み合わせてお囃子を楽しむことを告げ、次時への意欲をもたせる。</li> </ul>

#### 【ポイント★1-①】

グループ内で、自分の思いや意図を言葉や音楽で伝えたり、相手の思いや意図をとらえてアドバイスをしたりする中間交流の場面を設ける。

#### 【ポイント★1-②】

自分の思いや意図を相手にわかりやすく伝えたり、相手の思いや意図をふまえてアドバイスしたりできるように、文例を提示する。

「私は～な感じのお囃子をつくりたい。そのために、リズムを～のように工夫します。」

「～な感じを表すために、リズムを～のように工夫してはどうですか。」

#### 【ポイント★2】

振り返りの視点を振り返りカードに明示する。

- ・自分のお囃子づくりに役立った仲間の意見
- ・交流のよさについて気付いたこと

# 「話す力・聞く力」を育成する指導の工夫

## 小学校中学年 特別活動における実践例

### 実践例における「話す力・聞く力」を育成する指導のポイント

- ★1 自分の思いや考えを、理由を挙げながら話すようにします。
- ★2 相手の言いたいことや考えの中心は何か、気を付けて聞くようにします。
- ★3 互いの考えの共通点や相違点を明確にしながらかし合えるよう促します。

- 1 学年 小学校 第4学年
- 2 題材名 係活動を充実させよう
- 3 題材の目標 学級全体で協力し合って楽しい学級生活をつくるために、日常の係活動の計画や改善策について考え、準備ができるようにする。
- 4 題材の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 * 評価
事前の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 係活動に関するアンケートを実施する。</li> <li>○ 学級役員から議題の提案をする。(朝の会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果から、学級役員で協議し、議題を決定する。</li> </ul>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ はじめのことば</li> <li>○ 歌</li> <li>○ 役割紹介</li> <li>○ 議題の確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     議題：係活動を今より充実させる作戦を考えよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級の歌を元気に歌うことで、楽しい雰囲気づくりに努める。</li> <li>・提案理由を確かめ、学級活動カードに自分の考えを書くように促す。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の話</li> <li>○ 話し合い活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・係活動に楽しく取り組めるような取組を考える。</li> </ul> </li> <li>→【ポイント★1】</li> <li>→【ポイント★2】</li> <li>→【ポイント★3】</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 決まったことの確認                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったことに対する自分の考えを学級活動カードに記入する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反対意見の友だちでも受け入れられるような計画を提案するなど、みんなが協力して実施できる方法を考えるように促す。</li> <li>・友だちと意見交換し、新たな意見や折り合いをつけた案を出すなどの工夫を促す。</li> </ul> <p>*【思】充実した学級の生活づくりのために、よりよい方法などについて考え、判断し、まとめようとしている。(学級活動カードへの記述内容や観察)</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 振り返り</li> <li>○ 教師の話</li> <li>○ おわりのことば</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの考えを大切にしたい意見を取り上げ評価する。</li> </ul>
事後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作戦を取り入れて係活動を実施する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各係活動ごとに反省を行い、振り返りカードに記入する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善点等を意識して実施するよう助言する。</li> <li>・振り返りカードの結果から児童に活動の成果を伝える。</li> </ul>

**【ポイント★1】**  
理由を挙げた話し方の例を具体的に示す。

- ・「私は～係で～をすることもっと楽しく仕事ができると思います。理由は～だからです。」

**【ポイント★2】**

相手の考えの中心に気を付けて聞き、分からないことをたずねたりしながら発表したりするように促す。

**【ポイント★3】**

相手の発言をしっかりと聞き、思ったことや感じたことを伝え合いながら進行するよう促す。

- ・「私は○○さんの考えに賛成です。」
- ・「△△さんの意見は～ということですね。違う考えの人はいませんか。」

# 「自分の役割を果たす力」を育成する指導の工夫

## 小学校高学年 家庭科における実践例

### 実践例における「自分の役割を果たす力」を育成する指導のポイント

- ★1 自分の成長を振り返ることにより、家族の一員として自分の役割を果たそうとする意欲が高まるようにします。
- ★2 他の児童との意見交流を通して、計画を見直し、自分の分担する仕事に取り組みながら生活することができるようにします。

- 1 学 年 小学校 第5学年
- 2 題 材 名 夏休みの仕事にチャレンジしよう
- 3 本時の目標 1学期の学習を振り返り、自分の成長と家族に関心を持ち、家庭生活と家族の大切さに気付くとともに、家庭の仕事を見直し、自分の分担する仕事の計画を工夫することができる。
- 4 本時の展開 (2 / 3)

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習のめあてを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     1学期の学習でできるようになったことを振り返り、夏休みの仕事の実践計画を立てる。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるようになった喜びを言葉で表現することにより、夏休み中の実践意欲につなげることができるようにする。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1学期に学習したことを振り返り、がんばったことやできるようになってうれしかったことを付せんに記入し、学習カードに貼る。</li> <li>○ できるようになったことを発表する。 →【ポイント★1】</li> <li>○ 夏休みにやってみたい家庭の仕事の実践計画を立てる。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・やってみたい家庭の仕事</li> <li>・その仕事に決めた理由</li> <li>・日時</li> <li>・実践の仕方</li> <li>・工夫すること</li> </ul> </li> <li>○ 夏休みに実践する家庭の仕事をグループ内で発表し合う。 (例)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶を入れる</li> <li>・部屋の整理整頓をする</li> </ul>                             →【ポイント★2】                         </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【関】 1学期の学習を振り返り、自分の成長と家族に関心を持ち、家庭生活と家族の大切さに気付いている。 (学習カードへの記述内容)</li> <li>*【創】 家庭の仕事を見直し、自分の分担する仕事の計画を工夫している。 (仕事の計画表への記述内容)</li> <li>・1学期に学習してできるようになったことを生かして実践するよう助言する。</li> <li>・自分の仕事の工夫が考えられない児童には、他の児童の計画を参考にさせたり、具体的な例を挙げて考えさせたりする。</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践後に実践記録表を記入することを伝える。</li> </ul>

#### 【ポイント★1】

家族の一員として自分の役割を果たそうとする意欲を高めるために、1学期の自分の成長を実感させるための手立てを工夫する。

- ・児童の成長や頑張りの様子、家族の感想を保護者から事前に聞き取り、全体に紹介する。
- ・お茶の入れ方、テーブルの拭き方など、できるようになったことを実演しながら発表できるようにする。

#### 【ポイント★2】

友達の仕事の計画を聞いたリ、自分の計画について友達から意見をもらうことにより、自分にできる様々な仕事があることに気づき、計画を見直して、家庭の仕事に自主的に取り組むことができるようにする。



# 「前向きに考える力」を育成する指導の工夫

## 小学校高学年 特別活動における実践例

### 実践例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント

- ★1 児童が互いのよさを認め合うことにより、自己のよさを伸ばす取組への意欲が高まるようにします。
- ★2 実践に向けた具体的なめあてを考え、継続的に取り組むことにより、自己のよさを生かしながら生活することができるようにします。

- 1 学年 小学校 第6学年
- 2 題材名 自己のよさの伸長
- 3 題材の目標 自分自身のよさについて再確認し、それを生かしながら、学級の友達と協力して生活していこうとする意欲を高める。
- 4 題材の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
事前の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「友達の見付け」をする。</li> <li>・ 隣の席の友達のよいところを「よさ見付けカード」に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由な視点でよさを見付けるようにする。</li> <li>・ 見付けたよさについて、理由を添えて説明できるように準備させておく。</li> </ul>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分自身のよさを振り返る。</li> <li>・ 児童から見た学級担任のよさについて考え、人にはいろいろなよさがあることに気付く。</li> <li>・ 自分自身のよさについて考える。</li> <li>○ 友達から見付けてもらった「自分のよさ」を知る。</li> </ul> <p>→【ポイント★1】</p>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分のよさについて見直す。</li> <li>・ 友達から見付けてもらった自分のよさを、各自分類する。</li> <li>・ 自分のよさを分類して感じたことを、学習カードに書く。</li> <li>○ お互いのよさを伸ばす方法について話し合う。</li> <li>○ 自分自身のよさを生かして取り組む内容を決める。</li> </ul> <p>→【ポイント★2-①】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身のもっているよさをいろいろな場面で生かしていくことの大切さについて説明する。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分が取り組む内容やめあてを学習カードに書く。</li> <li>・ 実践に向けた具体的なめあてになっているか、グループで意見交換をする。</li> <li>○ 取り組む内容について友達と伝え合う。</li> <li>・ 友達に自分のめあてを伝え、コメントをもらう。</li> <li>○ 教師の話を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【思】 友達の意見を参考にしながら、自分自身のよさについて再確認し、そのよさをどう生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。（学習カード、観察）</li> </ul>
事後の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の取組について振り返る。</li> <li>・ 帰りの会などを利用して、自分の取組について振り返り、学習カードに書く。</li> <li>○ 友達同士で取組を確認し合う。</li> <li>・ 帰りの会などを利用して、友達同士で取組を確認し合う。</li> <li>・ お互いの努力を認め、励まし合い、取組を継続する。</li> </ul> <p>→【ポイント★2-②】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【思】 友達の意見を参考にしながら、自分自身のよさについて再確認し、そのよさをどう生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。（学習カード、観察）</li> </ul>

### 【ポイント★1】

友達が見付けてくれた自分のよさを知ることを通して、自分では気付かなかったよさを意識することができるようにする。

- ・ 「よさ見付けカード」に友達が書いてくれた自分のよさについて、その理由などを聞く。

### 【ポイント★2-①】

自分のよさを生かしためあてを考えられるよう、よさを伸ばす方法を提示する。

- ・ 自分では気付いていなかったよさを意識する
- ・ 自分が一番伸ばしたいよさに磨きをかけるなど

### 【ポイント★2-②】

事後の学校生活において、教師が見取った個々の取組の状況を全体に紹介し、実践の継続化を図るようにする。

# 「自分自身や他者を理解する」を育成する指導の工夫

## 小学校高学年 算数科における実践例

### 実践例における「自分自身や他者を理解する力」を育成する指導のポイント

- ★1 既習事項を活用して自力で考えたり、自分の考えを発表したりする場面を設け、児童が自分らしさを発揮できるようにします。
- ★2 他の児童と話し合って計算の仕方について考えることを通して、自分と異なる意見も理解しようとする態度を育てます。

- 1 学 年 小学校 第5学年
- 2 単 元 名 小数のわり算
- 3 本時の目標 除数が小数である場合の除数の計算の仕方について考えることができる。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<b>問題</b> リボンを2.5m買ったなら、代金は400円でした。このリボン1mのねだんを求めましょう。  ○ 式を立てる。 ・ $400 \div 2.5$	・ 小数でわる計算は初めて学習することを確認する。 *【関】 小数の除法の計算について、整数の計算などと関連付けて考えようとしている。 （観察、ノートへの記述内容）
	○ 学習のねらいを確認する。 「整数を小数でわる場合の計算の仕方を考えましょう。」 ○ 各自、図や式、言葉を用いて計算の仕方を考える。 → <b>【ポイント★1】</b>	
展 開	○ 互いの考えを発表し合い、計算の仕方を見いだす。 → <b>【ポイント★2】</b>	*【考】 小数の除法の計算の仕方を考えている。 （観察、ノートへの記述内容）
	<b>【まとめ】</b> 整数を小数でわる計算も、わり算の性質を使って考えることができる。  ○ 適用問題に取り組む。 84÷1.4の答えの求め方を説明しましょう。  ○ 学習内容の理解に応じて、家庭学習の見通しをもつ。	・ チャレンジテスト等を活用する。  ・ 学習内容の確実な定着を図る家庭学習用の練習問題を提示する。
終 末		

#### 【ポイント★1】

机間指導において児童の様々な考え方のよさを取り上げて価値付け、児童が自分の考えに自信をもつことができるようにする。

- ・「この図と式を使って考えを説明するとわかりやすいですね。」
- ・「リボンが25mのときの値段から考えてみると、整数でわる計算の仕方を使うことができますね。」

#### 【ポイント★2】

それぞれの考えのよいところや、他の児童との考えの相違点と共通点など、話し合いの視点を明確に示す。

# 「他者に働きかける力」を育成する指導の工夫

## 小学校高学年 外国語活動における実践例

### 実践例における「他者に働きかける力」を育成する指導のポイント

- ★1 他の児童と互いに英語で道案内をする活動の楽しさを体験することを通して、場に応じた適切な言葉遣いで話すことの大切さに気付かせるようにします。
- ★2 目的地やその行き方が相手に伝わるように工夫して尋ねたり案内したりすることを通して、相手の立場に立って考え行動する力を高めるようにします。

- 1 学 年 小学校 第6学年
- 2 題 材 名 道案内をしよう
- 3 本時の目標 気持ちのよいやり取りに気付いて、目的地への行き方を進んで尋ねたり案内したりしようとする。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 英語で挨拶する。 Hello, how are you? - I'm good/ fine /hungry.</li> <li>○ 【Let's Chant】 チャンツ “Where is the station?” を、ジェスチャーを付け、建物の絵カードを示しながら言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目的地を変えることにより、児童が飽きずにチャンツを言えるようにする。</li> <li>・ 児童の実態に合わせてスピードをコントロールしてチャンツをする。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 【Activity】 ペアで道案内をする。</li> <li>① 教室を町に、机を建物に見立て、机の上に建物絵カードを置く。</li> <li>② 一人がある建物の場所を尋ね、もう一人がその建物を確認する。</li> <li>③ 尋ねた児童は、その建物への行き方を案内してもらい、指示に従って歩く。</li> <li>④ 建物に着いたら、役割を交代する。</li> <li>A: Excuse me, where is the flower shop?</li> <li>B: The flower shop? OK. Go straight. Turn right. Turn left. It's the flower shop.</li> <li>A: (Bの指示に従って、実際に歩く) Thank you.</li> <li>B: You're welcome.</li> </ul> <p>→【ポイント★1、2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道案内の仕方、デモンストレーションで示す。</li> <li>・ 気持ちのよいやり取りをするための言葉かけに気付かせる。</li> <li>*【気】頼むときやそれに応える気持ちのよいやり取りの仕方に気付いている。 (行動観察、振り返りカードへの記述内容の分析)</li> <li>・ 言いくさそうにしている児童のそばに寄り添い、一緒に行き方を説明したり、行動したりする。</li> <li>・ 相手に伝わるように工夫して尋ねたり言ったりしているペアを全体で紹介する。</li> <li>*【慣】目的地やその行き方が相手に伝わるように工夫して、尋ねたり言ったりしている。 (行動観察、振り返りカードへの記述内容の分析)</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の振り返りをする。</li> <li>○ 挨拶をする。 ・ Good-bye. See you.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の様子等についてよかったところを具体的に挙げ、次時の意欲を高めるようにする。</li> </ul>

#### 【ポイント★1】

Excuse me. と言って声をかけたり、You're welcome. と添えたりすることにより、尋ねる児童も案内する児童も気持ちよくやり取りできることを体感させるようにする。

- ・ 教師がデモンストレーションをする際、Excuse me. Thank you. などを加え、これらの言葉を添える大切さに気付かせる。
- ・ 気持ちのよいやり取りをするための言葉かけを行っているペアを全体で紹介し、感じたことを交流させる。

#### 【ポイント★2】

相手に伝わるように尋ねたり言ったりするための工夫を、全員で共有できるようにする。

- ・ 相手に伝わるように工夫しているペアを全体で紹介し、気付いたことを交流させる。
- ・ 相手に伝わるようにするため、ジェスチャーを付ける、相手の言葉を繰り返す、強調して言うなどの工夫をしていることを確認する。

# 「話す力・聞く力」を育成する指導の工夫

## 小学校高学年 国語科における実践例

### 実践例における「話す力・聞く力」を育成する指導のポイント

- ★1 「目的に合わせて事物や人を推薦する」という単元を貫く言語活動に対して、本時の学習活動が対応するように工夫します。
- ★2 学習のまとめにおいて、本時の学習活動でどのような言語能力を身に付けたのか、児童が自覚できるようにします。

- 1 学 年 小学校 第5学年
- 2 単 元 名 理由を明確にして、すいせんしたり、それを聞いたりしよう
- 3 本時の目標 友達を推薦したり、自分の考えと比べながら友達の推薦を聞いたりして、聞き手が納得する推薦の仕方について考えることができる。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	○ 単元の学習計画をもとに、本時の課題をつかむ。(単元を貫く言語活動を確認する。)	・目的に合わせて人物を推薦することを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     課題：自分が友達をすいせんしたり、すいせんを聞いたりして、聞き手が納得するすいせんの仕方について考えよう。                 </div> ○ 前時までの学習内容を確認する。 ・推薦理由を考えること ・推薦文の構成を工夫すること	・推薦する人物のよさが伝わるように理由を考えたり、具体的なエピソードを入れて話を構成したりすることを確認する。
展 開	○ グループ内で発表し、人物を推薦し合う。	*【話】推薦した理由が納得できるかどうかを考えながら聞き、よりよい推薦の仕方をノートにまとめている。(ノート)
	○ 推薦の中から、よいと思うものを一つ選び、その理由を書く。 →【ポイント★1】	
終 末	○ 選んだ人物とその理由についてグループで交流する。 ・人物を選んだ理由をまとめる。	・推薦の目的に着目するよう促す。
	○ グループで話し合った結果を全体で発表する。	
終 末	○ 聞き手が納得する推薦の仕方についてまとめる。 →【ポイント★2】	・交流の成果をノートに整理する場面を設ける。

#### 【ポイント★1】

自分の考えをもち、相手の考えと比べながら聞くことができるよう、活動の視点を明確に示します。

- ・「推薦する目的を考えながら聞きましょう。」
- ・「推薦した理由が納得できるかどうかを考えながら、選んだ理由を書きましょう。」

#### 【ポイント★2】

本時の課題に対し、まとめの内容を対応させ、学習内容の定着を図ります。

- ・まとめの例  
「主張を支える根拠を明確にする(いくつ話すか、どんな順序で話すか)」
- 「強弱や速さ、間など、効果的な話し方を工夫する」

# 「自分の役割を果たす力」を育成する指導の工夫

## 中学校 特別活動における実践例

### 実践例における「自分の役割を果たす力」を育成する指導のポイント

- ★1 インターネットや携帯電話に関する身近なトラブルへの対処法を考察することを通して自己の生活の充実と向上について主体的に考えることができるようにします。
- ★2 事後の活動において自分のルールづくりや家庭での話し合いに取り組むことにより、情報社会の一員として適切に行動する実践意欲を高めるようにします。

- 1 学 年 中学校 第2学年
- 2 題 材 名 インターネット等の利用
- 3 題材の目標 インターネットや携帯電話の望ましい活用の仕方について考え、情報社会の一員としての自覚をもち、責任のある行動をとろうとする態度を育てる。
- 4 題材の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
事前の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防犯教室「ネットトラブルの実態」で警察官の講話を聞く。</li> <li>○ 防犯教室終了後、学級活動ノートに感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会に関心をもち、身近な問題としてとらえられるようにする。</li> </ul>
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防犯教室の感想を発表し合う。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループごとに、メールの対応について考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例ごとの対処法について考察する。</li> <li>・グループで考えを交流する。</li> </ul>                             →【ポイント★1】                         </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「チェーンメールが届いた」「友達の悪口が書かれたメールが届いた」など、生徒にとって身近に感じられる事例を取り上げる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループでまとめた考えを全体に発表する。</li> <li>○ 事例毎の望ましい対応について全体で意見交流をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【思】望ましいメールの対応について考え、理由を示して自己の意見を述べている。 (発言の内容、学級活動ノートへの記述内容)</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習のまとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの利用について、自分の考えを学級活動ノートにまとめるよう促す。</li> </ul>
事後の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インターネットや携帯電話を利用する際の留意事項について話し合う。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のルールとして決めたことや、家庭で話し合ったことを紹介し合う。</li> <li>・互いの取組のよさを認め合う。</li> </ul>                             →【ポイント★2】                         </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【思】情報社会の一員としての自覚をもち、適切な行動の仕方について考え、実践している。 (観察)</li> </ul>

#### 【ポイント★1】

「チェーンメールが届いた」「友達の悪口が書かれたメールが届いた」「アンケートに答えるとポイントをもらえるというメールが届いた」など、生徒が身近な問題としてとらえることができる事例を提示する。

#### 【ポイント★2】

各自が自分のルールとして決めたことや家庭で話し合ったことを、紹介し合ったり認め合ったりする場面を設け、実践への意欲の継続化を図る。

# 「前向きに考える力」を育成する指導の工夫

## 中学校 道徳の時間における実践例

### 実践例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント

- ★1 他者理解、自己理解を促し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深めさせるようにします。
- ★2 書く活動や語り合う活動など自己の心情、判断等を表現する機会を充実します。

- 1 学 年 中学校 第1学年
- 2 主 題 名 希望と勇気、強い意志 内容項目1-(2)
- 3 本時のねらい 希望と勇気をもってねばり強く着実にやり抜く態度を育てる。
- 4 資 料 名 「私と部活動」「得がたい石」(文部省 道徳教育推進指導資料1)
- 5 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の挫折経験についての事前のアンケートの結果を確認する。</li> <li>→【ポイント★1-①】</li> <li>&lt;アンケート項目&gt;</li> <li>・挫折の経験はあるか。</li> <li>・挫折の経験のある人はどのような挫折か。</li> <li>・挫折をしたときはどのような気持ちか。</li> <li>・その後どういう行動をとったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挫折の経験がない生徒には、もし自分が挫折したらどのように行動するかなどを考えるよう促す。</li> </ul>
展 開 前 半	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料「私と部活動」を読んで話し合う。</li> <li>→【ポイント★1-②】</li> <li>・「本気でテニスをやめよう」と思ったときの筆者は、どのような気持ちだったか考える。</li> <li>・筆者を立ち直らせたのは、どのようなことだったか考える。</li> <li>・この経験から、筆者はどのような人間としての生き方を学んだか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望と勇気をもってねばり強く着実にやり抜くことの大切さに気付くよう、主人公の心の変化に着目させる。</li> </ul>
展 開 後 半	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の考えをまとめ、話し合う。</li> <li>→【ポイント★2】</li> <li>・苦しさやつらさから逃げずに、希望や勇気をもってやり抜いた経験やそのときの気持ちについて、ノートに書く。</li> <li>・ノートに書いた経験を交流し、お互いの気持ちを比較する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*自分には苦しさやつらさから逃げずに、希望や勇気をもってやり抜く力があることを認識し、これからの自分の生き方について考えている。(ノートへの記述内容)</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 補助資料「得がたい石」を読む。</li> <li>・筆者が3年生になって書いた文章を読み、苦しさやつらさから逃げずに、希望や勇気をもってやり抜くことの大切さを感じ取る。</li> </ul>	

#### 【ポイント★1-①】

今までの自分を振り返るとともに、他者の考えに触れる場面を設定することで、自らの考えの深化や変容を捉えやすくする。

#### 【ポイント★1-②】

自分の価値観を見つめ直し、新たな価値観に気付くことができるよう、子どもの考えの着眼点を変える発問をする。

#### 【ポイント★2】

自らの生き方に向き合い、より高い目標を目指すことができるよう、書くことや話し合う内容の視点を明確に示す。

# 「自分自身や他者を理解する力」を育成する指導の工夫 中学校 外国語科における実践例

## 実践例における「自分自身や他者を理解する力」を育成する指導のポイント

- ★1 傾聴するなど、互いのことを尊重し合いながら活動を行うことにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が身に付くようにします。
- ★2 活動について生徒同士が評価し合う機会を設け、互いのよさがわかるようにします。

- 1 学年 年 中学校 第2学年
- 2 単元名 I want to know you.
- 3 本時の目標 ペアによる会話を通して、自己紹介の表現を理解し、自分のことや相手のことについて英語で紹介することができる。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動のモデルを見ることにより本時の見通しをもつ。</li> <li>・ JTEが「相手の名前」「好きなこと」「その理由」を質問し、ALTの回答をワークシートに記入する。そのあと、役割を交代し、同じ活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動のモデルを提示することにより、生徒がどのような活動を行うのかを明示する。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアによる情報の聞き取り → <b>【ポイント★1-①】</b></li> <li>・ 生徒はペアになり、ワークシート1を用いてお互いに質問をする。</li> <li>・ ワークシート2にペアに関する情報を記入する。また、相手がどのような人物であるかの1文を必ず加える。</li> <li>○ ペアによるクラス全体への発表</li> <li>・ 発表する際は、ジェスチャーなどを交えながら、ペアの紹介をする。</li> <li>→ <b>【ポイント★2】</b> (ペアによる他者紹介の文例)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>Hello, everyone. I introduce him to you. His name is Masanori. He likes to practice Karate because he wants to be strong. I think he is a powerful man. Thank you.</b></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のペアの発表を聞き、級友に関する情報を理解する。</li> </ul>	<p>ワークシート1の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A: Hello, may I interview you? B: Yes, of course. A: What is your name? B: My Name is _____.</p> <p>A: What do you like to do? B: I like to _____.</p> <p>A: Why do you like it? B: Because _____.</p> </div> <p>ワークシート2の例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1 His / Her Name is _____.</p> <p>2 He / She likes _____ because _____.</p> </div> <p>*【関】身振りや手振り、知っている語句や表現をうまく利用して自分の考えなどを話している。 (ペアの紹介の観察)</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習のまとめをする。</li> <li>→ <b>【ポイント★1-②】</b></li> <li>・ ペアとの対話や発表を通して、相手のことを知るための表現を学ぶことができたか確認する。</li> </ul>	

**【ポイント★1-①】**  
ワークシートに基づいて活動を行いながら、相づちを打つなど、積極的に相手の話に耳を傾け、コミュニケーションの楽しさを味わえるようにする。

**【ポイント★2】**  
発表したペアに質問したり、感想を述べたりしてよかったところ、悪かったところがわかるようにする。

**【ポイント★1-②】**  
自分のよさや個性が分かり、他者のよさを理解し尊重することの大切さについて確認できるよう、自己評価シートを工夫する。

# 「他者に働きかける力」を育成する指導の工夫 中学校 理科における実践例

## 実践例における「他者に働きかける力」を育成する指導のポイント

- ★1 考えを発表し合ったり、討論しながら考えを深め合ったりする学習活動を取り入れます。
- ★2 生徒の協働的な学習活動を通して、互いに関わり合う場面を意図的に設定します。
- ★3 それぞれの長所を生かした役割分担をすることにより、自己有用感を高めるようにします。

- 1 学 年 中学校 第2学年
- 2 単 元 名 電流と磁界
- 3 本時の目標 磁石の回りに磁界ができることについて、実験を通して基本的な概念や法則を理解することができる。

### 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標、学習計画、進捗状況を確認し、本時の見通しをもつ。</li> <li>・二人一組で、いろいろな強さの磁石や、ゼムクリップを用いた実験を行い、磁力の及ぶ空間について調べる。</li> </ul> <p>→ <b>【ポイント★1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁力が及ぶ空間を「磁界」と呼ぶことを知る。</li> </ul>	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで、磁界の様子を調べるための実験計画を立て、計画に沿って実験する。</li> </ul> <p>→ <b>【ポイント★2】</b></p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁石のまわりに砂鉄をまく。</li> <li>・方位磁針を使って調べる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実験結果からわかることをそれぞれがまとめ、グループ内で交流し、考察する。</li> </ul> <p>考察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則性の有無</li> <li>・図で表現することの可否</li> <li>・言葉を用いてまとめることの可否</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 考察したことをグループでまとめ、リーダーが発表する。</li> </ul> <p>→ <b>【ポイント★3】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験計画は、結果を予想したものとなっているか考えさせる。</li> </ul> <p>*【思】磁界に関する事物・現象の中に問題を見い出し、目的意識をもって観察、実験などを行い、磁界の表し方について自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。(発言の内容、ワークシートの記述内容)</p>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習のまとめをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             磁界には方向性がある。         </div>	

**【ポイント★1】**

他者との話し合い活動を通して自分の考えを深化させることができるように、話し合う場面と時間を確保する。

**【ポイント★2】**

グループのリーダーを中心に全員が協働しながら実験の進行に関わることができるよう実験計画を作成する。

**【ポイント★3】**

図で表現するのが得意な生徒、文章にまとめるのが得意な生徒、発表するのが得意な生徒など、それぞれの長所を生かせるよう、分担を工夫して考察をまとめさせる。



# 「話す力・聞く力」を育成する指導の工夫

## 中学校 国語科における実践例

### 実践例における「話す力・聞く力」を育成する指導のポイント

- ★1 話し合いの仕方を確認し、課題の解決に向け、適切に話し合いが進行できるようにします。
- ★2 自分の思いや考えを適切に表現できたかを振り返る機会を設け、身に付けた能力を自分で確認できるようにします。

- 1 学年 中学校 第3学年
- 2 単元名 課題解決に向けて話し合おう
- 3 本時の目標 「共同宣言」(学級で扱うことに決めた社会生活における課題について、宣言の趣旨や目的を記した前文と、解決のための具体的な行動を箇条書きで示したリーフレット)の作成のため、各グループの具体案をクラス全体で検討し、よりよい宣言文にまとめることができる。

#### 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標、学習計画、進捗状況を確認し、本時の見通しをもつ。</li> <li>・前時に各グループで作成した具体案(宣言に盛り込む具体的な内容・文章)を持ち寄ってクラス全体で検討し、よりよい宣言文にまとめる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">全体会議で具体案を検討しよう</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議長を決め、会議の目的と進め方を確認する。</li> </ul> <p>→【ポイント★1-①】</p>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ案を全体で検討し、宣言文をまとめる。</li> </ul> <p>→【ポイント★1-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効果や実現性など、内容の面から検討する。</li> <li>・文章として適切かなど、表現の面から検討する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 宣言の前文の案を各グループから提案し文章にする。</li> <li>・宣言の趣旨や決意を簡潔にまとめる。</li> <li>○ リーフレットの作成担当者を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい宣言文にまとめるという目的を常に意識するよう促す。</li> <li>・場にふさわしい言葉遣いや分かりやすい言葉を使うよう促す。</li> <li>*【話】他のグループの具体案のよいところを指摘したり、調整の仕方を提案したりしながら、自分の意見を見直したり深めたりしている。(発言の内容)</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いの仕方を振り返る。</li> </ul> <p>→【ポイント★2】</p> <p>(振り返りの観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な根拠をもとに筋道立てて話すことができたか。</li> <li>・解決する課題と目的を意識して話すことができたか。</li> <li>・提案の長所を整理し、最終案に生かすことができたか。など</li> </ul>	

#### 【ポイント★1-①】

話し合いが効果的に展開するように、全体会議の目的や進め方を確認する。

#### 【ポイント★1-②】

グループの話し合いの進度に応じて「この場合、どのように話を進めるとよいですか」など、議論の進め方について考える場面を設ける。

#### 【ポイント★2】

振り返りの観点を示し、身に付けた力を意識できるようにする。

# 「自分の役割を果たす力」を育成する指導の工夫

## 高等学校 地理とキャリア教育を結び付けた実践例

### 実践例における「自分の役割を果たす力」を育成する指導のポイント

- ★1 自分と社会とのつながりを意識して他の生徒と交流することを通して、自己が社会を構成する一員であることを自覚させるようにします。
- ★2 「諸事象を公正に判断する力」を高めることにより、世界の問題と自分との関係について考えることができるようにします。

- 1 学年 高等学校 第1学年
- 2 単元名 地理A 地球的課題の地理的考察
- 3 本時の目標 食料問題についての関心と課題意識を高め、地域間の格差やつながりを捉えながら我が国との関わりを考察し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての役割を果たそうとする。

#### 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ハンガーマップを見て気付いたことをグループで話し合う。</li> <li>○ 食料事情にはどのような問題があるかをとらえ、グループで追究するテーマを決定する。</li> </ul> <p>→【ポイント★1】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンガーマップを提示する。</li> <li>・グループごとに世界や地域における飢餓の状況について考察させる。</li> <li>・食料事情にはどのような問題があるかを説明する。</li> <li>・テーマを設定の理由をグループごとに発表させる。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループごとに、テーマに沿って意見交換する。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した地理情報から、テーマに沿って地域性を読み取る。</li> <li>・読み取った地域性について、比較したり関連付けたりする。</li> </ul> </li> <li>○ 食料問題と日本との関わりを考える。</li> </ul> <p>→【ポイント★2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後の課題や改善策について、具体的な取組としてまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内で作業を分担をして取り組ませる。</li> <li>*【関】食料問題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に生きる日本国民としての役割について考えようとしている。 (発言の内容、ノートへの記述内容)</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習をまとめ、次時の学習について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間、発表順、発表時の役割分担について説明する。</li> </ul>

#### 【ポイント★1】

各自が食料問題をどのようにとらえたかをグループで交流し、自分と社会とのつながりという視点から相手の考えに対する意見を伝えたり、質問したりして、テーマを決めるようにする。

#### 【ポイント★2】

自分の日常の食生活と世界の食料問題とを結び付けて考えさせるようにする。

# 「前向きに考える力」を育成する指導の工夫

## 高等学校 現代社会における実践例

### 実践例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント

- ★1 携帯電話を題材に、情報に関わる課題を自己との関わりにおいてとらえ、自分と社会とのつながりが理解できるようにします。
- ★2 様々な立場の「幸福」に気づき、それらが尊重されるような解決策をグループで考えることにより、社会や他者を尊重しながら生きる意欲が高まるようにします。

- 1 学 年 高等学校 第1学年
- 2 単 元 名 私たちの生きる社会
- 3 本時の目標 携帯電話を題材に、情報通信機器を適切かつ主体的に活用するために、自己との関わりにおいて情報に関わる課題を見出し、「幸福、正義、公正」の枠組みを基に、解決策について考察することができる。

#### 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標を確認し、本時の見通しをもつ。</li> <li>・携帯電話でできることについて、となりの人と話し合い、7個以上出たら挙手をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     携帯電話でできることを考えよう                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム性をもたせた活動により、意欲を喚起する。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 携帯電話を活用する上での課題について具体的に考え、ワークシートに記入する。</li> <li>→【ポイント★1】</li> <li>○ 4人グループをつくり、ワークシートに記入したことを交流し、出てきたものを個人の「幸福」と他者の「幸福」に分類する。</li> <li>○ 自分の「幸福」と他者の「幸福」が対立した状況をどのようにして合意に結び付けるかについてグループで話し合う。</li> <li>→【ポイント★2】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの立場に配慮することが「公正」であり、解決策を考えることが「正義」であることを説明し、自分で解決策を考える中で自分の判断基準を意識させるようにする。</li> <li>*【思】自分の「幸福」と他者の「幸福」が対立した状況について、幸福、正義、公正などの観点から多面的・多角的に考察し、様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 (発言の内容、ワークシートの記述内容)</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いの結果を受けて、各自で考えた、自分の「幸福」と他者の「幸福」の対立状況の解決策を、ワークシートに記入し、提出する。</li> </ul>	

#### 【ポイント★1】

情報に関わる課題を、自己との関わりにおいてとらえることができるよう、視点を明確に示す。

- ・携帯電話を利用して、自分が「知りたいこと」「知らせたいこと」「知られたくないこと」「知りたくないこと」を考えて、ワークシートに書く。

#### 【ポイント★2】

交流において、「幸福・公正・正義」の枠組みを用いて解決策を考える際の留意点を示す。

- ・それぞれの立場に配慮しているか。
- ・少数者や弱い立場の人も尊重されているか。
- ・自分が解決策を考えているときの判断基準は何か。

# 「自分自身や他者を理解する力」を育成する指導の工夫

## 高等学校 総合的な学習の時間における実践例

### 実践例における「自分自身や他者を理解する力」を育成する指導のポイント

- ★1 社会との関連を意識して自己の在り方生き方について考えることを通して、自己理解が深まるようにします。
- ★2 他の生徒と交流する活動において、他者を受け入れ、尊重することができるようにします。

- 1 学年 高等学校 第2学年
- 2 題材名 多方面で活躍する人たちの人生観
- 3 本時の目標 他者の考えを知り、他者と共生する上で必要となる視点や力、自己を豊かにするための考え方と行動、計画性と継続、努力と挑戦することの大切さを知り、自己の在り方生き方を明らかにする。
- 4 本時の展開（外部講師による講演後）

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の内容を振り返る。</li> <li>・ 外部講師による講演を聞いた感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒が自己に重ね合わせながら振り返ることができるようにする。</li> <li>・ 他者の価値観や個性等について理解し、受け入れることの大切さに気付かせるようにする。</li> </ul>
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己の在り方生き方に関する考えを整理する。</li> <li>・ 自分の考えをワークシートの1、2に書く。</li> <li>→【ポイント★1】</li> </ul>	<p style="text-align: center;">ワークシートの例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会の中で、どのように自己を生かしますか。</li> <li>2 1で書いたことをどのように実現させますか。</li> <li>3 グループでの交流を通して気付いたことを書きましょう。</li> </ol> </div>
開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内で互いの考えを発表し、将来への目標を明確にする。</li> <li>・ 相互評価を行う。</li> <li>・ 交流を通して新たに気付いたことをワークシートの3に記入する。</li> <li>→【ポイント★2】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【思】社会との関連を意識して自己の在り方生き方について考えている。（ワークシートへの記述内容）</li> <li>・ 公民科、家庭科など各教科と関連させる。</li> <li>・ 働くことの意義について理解させる。</li> <li>・ 計画性と継続、努力、挑戦することの大切さについて気付かせる。</li> </ul>
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習を振り返り、ポートフォリオに記入する。</li> <li>・ 他者の発表を聞いて自己を重ね合わせ、気づきを記録する。</li> </ul>	

#### 【ポイント★1】

考えを整理するための視点を示す。

- ・ 自分の興味・関心の対象が地域社会の中でどのような意味をもっているか。
- ・ 自分の長をどのように社会に生かすことができるか。

#### 【ポイント★2】

自己の在り方生き方について互いの考えを交流させた後、ワークシートに書いた自分の考えを見直したり交流を通して新たに気付いたことを書き加えたりするよう促す。

# 「他者に働きかける力」を育成する指導の工夫

## 高等学校 数学科における実践例

### 実践例における「他者に働きかける力」を育成する指導のポイント

- ★1 「説明する」、「議論する」という場面を計画的に設けることにより、他者に自分の考えを伝えることができるようにします。
- ★2 健全な批判力を育てることを通して、他者に自分の考えを伝えることへの自信と意欲をもたせるようにします。

1 学年 高等学校 第1学年

2 単元名 数学Ⅰ 二次関数

3 本時の目標

- ・日常生活や社会生活などにおける事象の数学的な側面に着目し、数学的に表現(数学化)する。
- ・日常の課題を数学的に解決することにより、今後の学習に関心をもつ。

4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導入	<p>課題</p> <p>車が安全に止まれて、渋滞の原因とならない車間距離は何mとればよいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学の記号・用語を用いて自分の言葉で発言できるようにする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題に対する予想を考える。</li> <li>○ 課題を考える。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に必要な情報や条件を設定する。(個別)</li> <li>・課題解決に必要な情報や条件について発表する。(グループ)</li> </ul> </li> </ul> <p>→【ポイント★1-①】</p> <p>→【ポイント★2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 上記の中から、特に必要な条件を発表する。(一斉)</li> </ul> <p>問題1</p> <p>5人が乗っている普通乗用車が、時速60kmで走行しています。適切な車間距離は何mですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制動距離を求める式を利用して計算する。(個別)</li> <li>・本来の制動距離との差異について考察する。(一斉)</li> </ul> <p>問題2</p> <p>問題1において、反応するまでの時間を0.75秒とします。適切な車間距離は何mですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・停止距離を求める式を利用して計算する。(個別)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*【関】二次関数について関心を持ち、事象の考察に二次関数を活用しようとしている。(発言の内容、ノートへの記述内容)</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「適切な車間距離」について周りの人にわかりやすく伝えるために、学習した内容をまとめる。(個別)</li> </ul> <p>→【ポイント★1-②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まとめた内容を発表する。(一斉)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な言葉や数学用語を用いて、根拠を明確にするよう指導する。</li> <li>・説明の不十分な点や誤りについて議論させる。</li> <li>・「摩擦係数<math>\mu</math>」のデータを配付する。</li> </ul>

#### 【ポイント★1-①】

自らの考えを積極的に話すことができるようにするとともに、他者の意見を受け入れ、課題解決に必要な条件を話すことができるようにするために、「ブレーンストーミング」の場面を設ける。

#### 【ポイント★2】

互いの考えを伝え合いながら、グループとしての考えをまとめられるようにするために、「KJ法」を活用する。

#### 【ポイント★1-②】

学習した内容について他者にわかりやすく伝えることができるようにするために、「学習した内容を周りの人にわかりやすく伝える」という目的意識をもたせる。

# 「話す力・聞く力」を育成する指導の工夫

## 高等学校 国語科における実践例

### 実践例における「話す力・聞く力」を育成する指導のポイント

- ★1 課題を解決したり考えを深めたりするための話し合いを通して、相手の立場を尊重して話し合う力を高めます。
- ★2 表現の仕方について論理的側面と情意的側面に配慮させ、目的や場にふさわしい表現をすることができるようにします。

- 1 学 年 高等学校 第1学年
- 2 単 元 名 交流を通して、自分の考えを深める
- 3 本時の目標 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の考えを尊重し、表現の仕方を工夫して話し合う。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	○ 本時の学習について確認する。	・「羅生門」(芥川龍之介)に関する大テーマ「生きるための論理」について立てた4つの小テーマ「葛藤」「決断」「喪失」「不安」に対する考えを、他の人との交流を通して深めることを確認する。
展 開	○ グループの中で分担して調べてきた各小テーマについて、他のグループで同じ小テーマを担当している人と話し合う。 ・同じ小テーマの担当同士でグループをつくり、調べたことを説明し合う。 ・他の人から得た情報等をノートに書き足したり、互いに説明し合ったりしながら考えを深める。 →【ポイント★1】 →【ポイント★2】	*【話】相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話し合っている。 (話し合いの様子の観察)
終 末	○ 次時の学習について確認する。	・本時に話し合ったことを元のグループの人に説明するための要約メモを作成することを確認する。

#### 【ポイント★1】

相手の立場を尊重して話し合い、考えを相対化するためのポイントを示す。

- ・相手の考えの要点を自分なりに整理する。
- ・相手の示す根拠の適否などを確かめるために質問する。
- ・相手の意見と自分の意見との共通点や相違点についてまとめる。

#### 【ポイント★2】

話し合いにおける表現の仕方の留意点を示す。

- ・話の展開や構成、言葉遣いを工夫する。
- ・表情や視線、声の調子に配慮する。